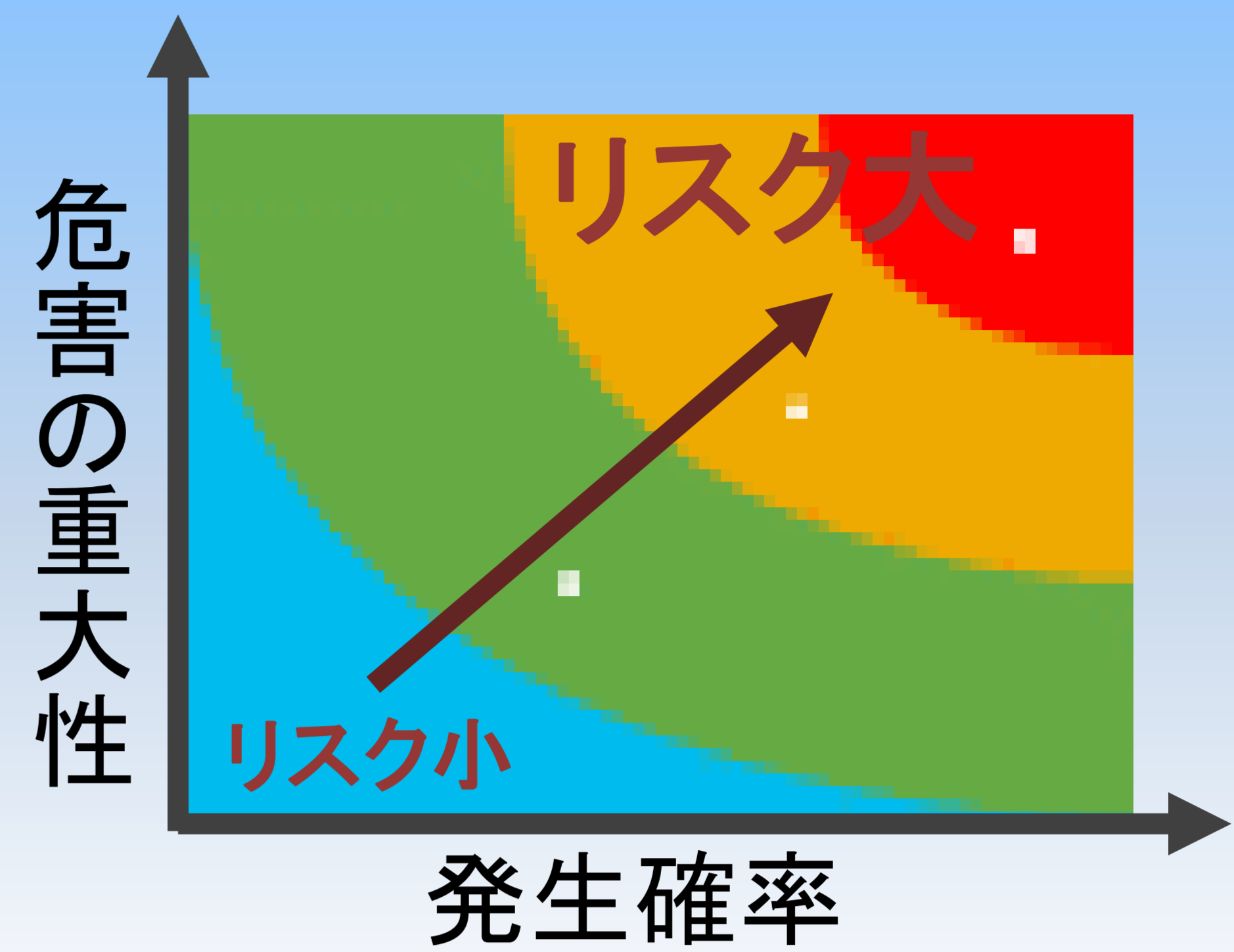


配電設備のリスク可視化への取り組み

# リスクを数値化し、アセットマネジメントを実現します。



背景・目的

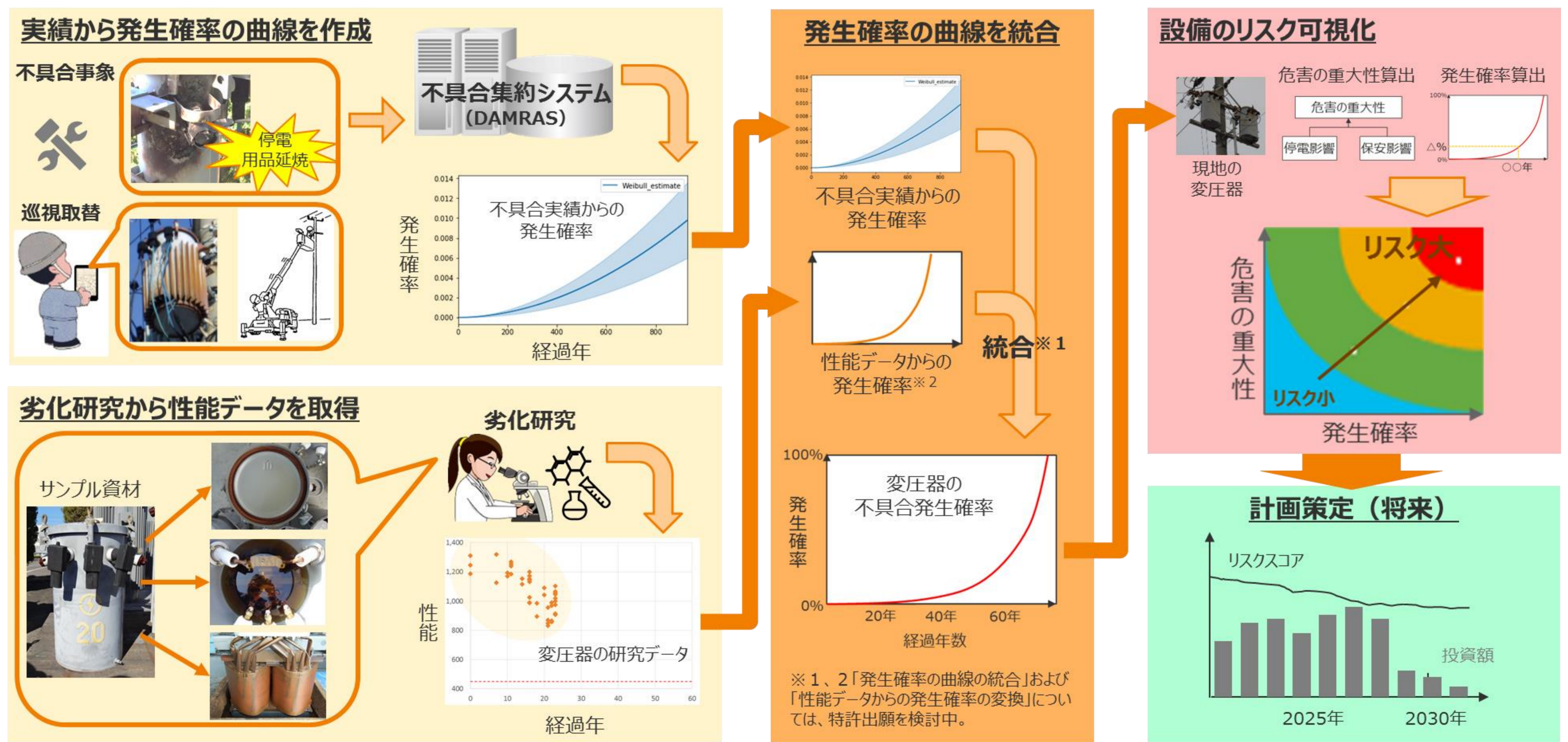
- 近年、設備個々に不具合が発生する確率と発生による危害の重大性からリスク評価を行い、予算や工事能力などの制約を加味して最適な設備更新を実現する手法(アセットマネジメント)が主流になりつつあります。本取組では、既存の設備情報と研究結果を生かして、導出が難しいと言われている不具合発生確率の算出方法を開発しました。

特長

- 発生した不具合や取替の実績から現場に即した現在の不具合発生確率を算出
- 劣化研究結果から将来の劣化進行度を考慮した不具合発生確率を算出
- 両データを組み合わせて、より精度の高い不具合発生確率を導出

用途

- 導出した発生確率を基にリスク評価を行うことで、設備のリスクが可視化できる
- リスクを可視化することで、優先取替すべき設備が分かる
- 取替予算とリスクをシミュレーションすることで、効率的な取替計画策定が可能(検討中)



開発者のひとこと

電柱だけでも200万本以上と膨大な配電設備に対して、全設備の状態監視や点検を実施するのは、経済的に困難です。点検でしか確認できなかったリスクを点検せずに数値化するために、データサイエンティストとも討議を重ね、説得性のある手法を確立しました。